

水質管理センター 業務紹介 & 職員インタビュー

どんな仕事をしていますか？

水質管理センターでは水道水と工業用水を作る浄水場の水質管理と水質検査をしています。

水質管理は、浄水工程で注入する薬品（凝集剤、消毒剤）の量の調整や注入設備・各種水質計器の保守管理を行い、水道水質の安全面を担う業務です。

水質検査は、法定検査である毎日検査項目と月1回の水質基準項目・管理目標設定項目について水質の安全を確認する検査と、結果を薬品注入や浄水操作に反映させ、より良い水を作るため毎週行う検査があります。水道水の安全の要とも言える業務です。



水質検査（金属類の一斉分析）

仕事をする上で心がけていることは？

安全でおいしい水を毎日送り続けるため、浄水設備が安定して運転できているか、異常の兆候はないか、また、薬品の保有量が十分あるかなどに気を付けています。

設備や浄水工程のトラブルは症状も原因も様々で、複数の要素が重なっている場合も多く、時間的制約がある場合もあります。それらを解明して素早く対処できるようにするため、日頃から設備や工程が水質にどう影響するかを考えるようにしています。



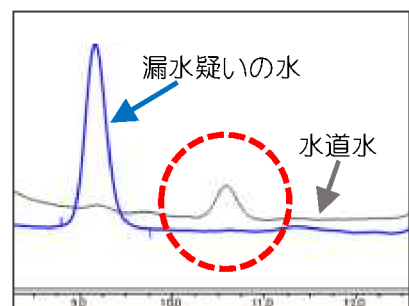
薬品注入設備の点検

水道の仕事のやりがいとは？

水道水は毎日の人の生活に欠かせないもので、安心して飲めるものでなくてはなりません。遠州水道も多くの方に利用してもらっているので、やりがいが大きく、同時に責任も大きいです。

これまで仕事してきた中で、うれしかったこと、印象に残っていることは？

①水道管からの漏水が疑われる場合、通常、道路を通行止めにして試掘工事を行い、漏水箇所を捜すため、人と時間、お金がかかります。漏水とその周辺土壌の分析データを集積し、解析したことにより、工事をしなくても水質分析で漏水かどうかの判別ができるようになり、工事業務の軽減とともに、通行止めなどによる渋滞を防ぐなど地域社会へも貢献できました。また、この成果について日本水道協会の研究発表会で発表したところ、多くの反響があったこともうれしかったです。



②より安全な水を目指し、夏期に増加しやすい消毒副生成物の量を低減するため、消毒用薬品の注入量の管理方法を工夫しました。水質管理と水質検査をどちらも担当しているので業務内容が幅広く大変なことも多いですが、測定結果を見て、いち早く効果を知ることができて感動しました。

③小学生の浄水場見学会では、川の水に凝集剤を入れる浄水実験を行い、水の濁りがきれいに取れて、たくさんの小学生が浄水の仕組みに興味を持ってくれた時はうれしかったです。

水道の仕事を希望する理由は？

医薬品や食品の検査の経験を活かして、重要なインフラの維持に役立ちたいと思うからです。

今後どんな仕事をしたいですか？

直接水を届けている市町と連携して、より安全でおいしい水を多くの方に安心して飲んでもらえるように、技術面で貢献していきたいです。



設備の点検



浄水工程の水質検査用の採水



原水水質監視装置の保守作業

ある一日のスケジュール

8時30分	夜間の施設管理委託業者からの引継ぎ 前日から夜間の浄水工程及び送水先の水質モニターの変化を確認し、今日の薬品注入量を決定
9時	水質検査結果の確認、データ処理
12時	昼休み
13時	薬品注入設備更新工事の打合せ
15時	水質計器不具合の確認
16時30分	夜間の施設管理委託業者への引継ぎ 夜間の薬品注入量の指示

ある一週間のスケジュール

月	水質月報の作成、法定検査の準備（標準液調製等）
火	水道水質の法定検査（機器分析開始）
水	前日からの機器分析結果の確認、機器の保守作業
木	薬品注入機の不具合の確認、報告書の作成
金	薬品注入設備更新工事の打合せ、水質計器の不具合の確認